

学位被授与者氏名	堺 智月（さかい ちづき）
論文題目	原風景はどのように語られるのか ～環境心理学からの一考察～
論文審査結果の要旨	<p>本研究は、環境心理学のテーマの一つである原風景に焦点を当て、個々人の原風景がどのように語られるのかについて、その原風景と個人の現在との接続も含めて理解することを試みる質的研究であった。</p> <p>本研究の特徴は、一面的に原風景を切り取るのではなく、家での生活から風景までの空間軸や、過去から現在までの時間軸を踏まえ、語られた原風景の全体像を多面的に捉えつつも、一つ一つの語りの意味に向き合う緻密な営みを遂行してきた点にある。また、原風景の想起過程においてポジティブな感情が伴うことに着目し、原風景の共同生成を支える聞き手とともに原風景を語り意味づけることが、現在やこれからの生活を支えていく可能性を実践的に示した点は、教育学的な橋渡し研究としても評価された。</p> <p>一方で、研究としての新規性に乏しい点は否めない。原風景と現在の生活が一貫したテーマで繋がっていることや原風景が想起される上で要となる人や場所の存在を指摘した点は興味深いが、著者自身も認めている通り、主要な先行研究をなぞっている部分もあり、先行研究を乗り越えられなかった点は課題と言えよう。最終試験時に指摘があったように、研究対象者の語りの共通点だけでなく相違点にも着目し、その相違を生み出す要因について考察を深めたり、先行研究との時代背景の違いを含めて議論を展開したりと、もう少し引いた視点で分析を重ねることが突破口となったように思われる。このような課題はあったとはいえ、研究対象者の語りにしっかりと耳を傾け、丁寧に分析を重ね、まとめ上げていることに変わりはなく、修士論文として十分に評価できると考える。</p> <p>2024年8月19日に、北九州市立大学北方キャンパス 本館 B-203 教室において、審査委員全員出席のもとで最終試験を実施して学力を確認し、論文の説明を受け、質疑応答ののちに、全員一致で当該論文が修士(人間関係学)として十分な内容であると判定した。</p>